

目 次

第4章 熱成層媒質における乱れ

§ 7. 熱成層した流れに対する対数境界層理論の一般化	365
7.1 接地大気層のモデルとしての熱成層乱流境界層	365
7.2 成層した媒質中の乱れに対する次元解析の適用	371
7.3 成層した媒質中の乱れを記述する普遍関数の形	376
7.4 普遍関数の形についての考察の続き：内挿式と半実験式	387
7.5 成層した境界層における乱流状態に対する一般的相似の仮定 と、乱れのゆらぎの特性量への応用	402
§ 8. 理論の結論と測定データとの比較	413
8.1 接地大気層における風速分布	413
8.2 温度分布と湿度分布のデータ	430
8.3 運動量と熱と水蒸気の乱流流束の測定法	448
8.4 気象変量の分布データによる乱流流束の決定	455
8.5 接地大気層における風速および温度のゆらぎの特性量	464

第5章 乱流中の粒子の運動

§ 9. 乱れの Lagrange 法による記述	475
9.1 非圧縮性粘性流体の Lagrange の運動方程式	475
9.2 Lagrange の乱れの特性量	481
9.3 単一流体粒子の変位の特性量、一様乱れの場合について	485
9.4 格子の背後の乱れと乱流せん断流れ中での流体粒子の変位	491
9.5 Lagrange の速度相関関数、および Euler の統計的的特性量との関係	510
§ 10. 乱流拡散	520
10.1 乱流拡散の記述法	520
10.2 分子拡散と乱流拡散の間の相互作用	531

10.3	乱流拡散の半実験的方程式	543
10.4	一様流れの場と簡単なせん断流れにおける拡散	550
10.5	接地大気層における拡散	571
10.6	有限速度をもつ拡散	609
文献一覧	I (1-2巻)	623
文献一覧	II (1-2巻)	636
索引	(1-2巻)	693
訳者あとがき		